

# 分岐部脳動脈瘤に新デバイス

## パルスライダーを導入

西区の北海道大野記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、脳動脈瘤治療の新デバイスであるパルスライダーを導入。これまで難しかった、分岐部脳動脈瘤の治療の選択肢の一つとして活用していく。

脳動脈瘤コイル塞栓術は、動脈瘤の内部にコイルを詰めることで、内部を固める治療。直線的な動脈に生じた動脈瘤だと、コイルを詰めて固定

は、動脈瘤の内部にコイルを詰めることで、内部を固める治療。直線的な動脈に生じた動脈瘤だと、コイルを詰めて固定

は、動脈瘤の内部にコイルを詰めることで、内部を固める治療。直線的な動脈に生じた動脈瘤だと、コイルを詰めて固定

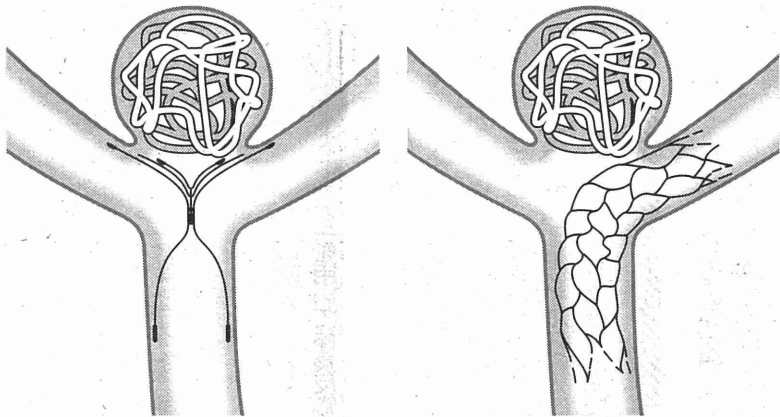
は、動脈瘤の内部にコイルを詰めることで、内部を固める治療。直線的な動脈に生じた動脈瘤だと、コイルを詰めて固定

# Hospital & Clinic

通常はステントを留置して固定するが、分岐部の血管しか保護できないため、血管の形状によってさまざまな課題が生じる。

通常はステントを留置して固定するが、分岐部の血管しか保護できないため、血管の形状によってさまざまな課題が生じる。

通常はステントを留置して固定するが、分岐部の血管しか保護できないため、血管の形状によってさまざまな課題が生じる。



パルスライダー

従来のステント

従来のステントと比較し、コイルをしっかりと固定できる

透視下でしっかりと状況を確認しなければならず、血管の形状などによつて、コイルを詰めるのに技術と経験を要するほか、「血管の走行や動脈瘤のネック部分の形状などで、新デバイスをを用いても施術が難しいことも少なくない」という。

同病院では、脳動脈瘤治療において、フロードアイバーターシステムを今春に導入している。非常に細かな編み目が入ったステントを使用する網目が動脈瘤内への血液の流入を大幅に減らし、内部に溜まった血液の血栓形成を促して瘤を閉鎖するもので、コイルを詰める作業が減る分、治療時間が短くなる。

フロードアイバーターシステム、パルスライダーともに、安全に進めるためには数多くのカテーテル治療を経験し、さまざまな緊急事態にも適切に対応できる体制が求められる。片岡統括診療部長

は、「経験豊富なスタッフと治療体制を整備している」とし、積極的にデ

一方、事前に動脈瘤や血管の状況を把握する必要はあるほか、術中も

一方、事前に動脈瘤や血管の状況を把握する必要はあるほか、術中も

一方、事前に動脈瘤や血管の状況を把握する必要はあるほか、術中も